中野区教育委員会会議録

令和7年第10回定例会

令和7年4月4日

中野区教育委員会

令和7年第10回中野区教育委員会定例会

○日時

令和7年4月4日（金）

開会 午前 10時00分

閉会 午前 10時37分

○場所

中野区役所7階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 森 克久

子ども・教育政策課長 神谷 万美

学校地域連携担当課長 保積 武範

子ども政策担当課長 小飼 保実

保育園・幼稚園課長 林 健

指導室長 井元 章二

学務課長 佐藤 貴之

子ども教育施設課長 原 太洋

幼児施設整備担当課長 高津 麻子

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 網野 愛子

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

○傍聴者数

3人

○議事日程

1 報告事項

(1) 教育長及び委員活動報告

① 4月1日 区立小中学校校長等辞令伝達式

(2) 事務局報告

① 令和7年度教育管理職の異動について（指導室）

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

田代教育長

おはようございます。

定足数に達しましたので、教育委員会第 10 回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は平本委員をお願いいたします。

伊藤委員は、オンラインでの参加となります。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりです。

最初に、令和 7 年 4 月 1 日付で教育委員会事務局の幹部職員の人事異動がございましたので、事務局からご報告をお願いいたします。

教育委員会事務局次長

それでは、令和 7 年 4 月 1 日付の教育委員会事務局幹部の人事異動についてご報告、そしてご紹介をさせていただきます。

初めに、子ども・教育政策課長、神谷万美でございます。

子ども・教育政策課長

神谷でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局次長

次に、学校地域連携担当課長、保積武範でございます。

学校地域連携担当課長

保積でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局次長

子ども政策担当課長、小飼保実でございます。

子ども政策担当課長

小飼でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局次長

保育園・幼稚園課長、林健でございます。

保育園・幼稚園課長

林でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局次長

幼児施設整備担当課長、高津麻子でございます。

幼児施設整備担当課長

高津でございます。よろしく願いいたします。

教育委員会事務局次長

子ども教育施設課長、原太洋でございます。

子ども教育施設課長

原でございます。よろしく願いいたします。

教育委員会事務局次長

幹部の人事異動につきましては以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

<教育長及び委員活動報告>

田代教育長

次に、報告事項に入ります。

初めに、教育長及び委員活動報告をいたします。

事務局からご報告をお願いします。

子ども・教育政策課長

4月1日、区立小中学校校長等辞令伝達式がございました。会場は教育委員会室。田代教育長に参加していただいたところです。

以上でございます。

田代教育長

各委員から補足、質問、その他活動報告がございましたら、お願いいたします。

村杉委員

情報提供をさせていただきます。

これから5年生、6年生の宿泊行事が始まります。最近も夜尿症の相談がありましたが、1年生に上がる前や5年生、6年生の宿泊行事の前に相談が多くなります。夜尿症は大体10歳で5%ぐらいいると言われておりますので、大体100人に5人です。1クラスに1人から2人はいるということになります。夜尿症児は自尊心が低いという傾向があり、この宿泊行事は大きな心配事です。また、成功して帰ってきますと、大きな自信につながります。

宿泊行事の事前からよく本人と保護者の方と先生方、ご相談いただき、お願いしたいのは、夜中にお手洗いに起こすことや薬を飲むときの配慮ですとか、もし万が一失敗してしまったときの他児への配慮などです。以前からしていただいていることかとは思いますが、

引き続き、本人に寄り添っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

平本委員

私は、少し前ではございますけれども、3月15日土曜日に南台小学校の新校舎内覧会と、3月22日土曜日に明和中学校の新校舎内覧会に伺ってまいりましたので、少しご報告させていただきます。

南台小学校のほうは、校庭は人工芝が整備されておりまして、校舎内に多目的に使用できるフリースペースが多数設けられている点が、大変使い勝手のよいつくりになっていると思いました。

また、廊下の小さなベンチというのが、様々な箇所に設置されておりまして、子どもたちが休み時間などに集まって、自由な活動をしやすい工夫がなされていると感じました。

校舎全体として、学校内での多様な交流を生み出すような空間づくりがなされており、今後の実際の活用事例や、子どもたちの意見や感想などもぜひお聞きいただきたいと思います。

また、明和中学校のほうですが、こちらも人工芝の校庭でありまして、広くて長い廊下と大変明るくて広い職員室、また校舎の中央にある吹き抜けの学校図書館、メディアセンターなどが大変印象的でした。

自然光がよく入る開放感のある校舎でして、少人数で落ち着いて学習を進めることができるような部屋やブースも確保されており、保健室や相談室の動線なども工夫されていると感じました。

4月になりましたので、子どもたちが新校舎で新しい学びをスタートする様子をまた聞かせていただくのが楽しみです。

以上です。

田代教育長

ほかに、委員の方から活動報告等、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは最後に私から、4月1日に区立小中学校校長等辞令伝達式がありました。校長先生は、昇任の方がお二人、他区から中野区に転任された方がお一人でございました。

中野区の小中学校は地域とのつながりが非常に強いので、地域の関係を大切にしてほしいということを、私からお伝えしました。

また、同日に中野区に新規採用になった幼稚園教諭、小中学校の教諭を含めた辞令伝達式がありました。今年度は41名の新規採用の先生が中野区で採用になりました。1日も早

く学校に慣れて、中野区の子どもたちと楽しくやっていただけたらいいなど、改めて思いました。

それでは、その他、発言がなければ委員活動報告を終了いたします。

<事務局報告>

田代教育長

続いて、事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「令和7年度教育管理職の異動について」の報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、「令和7年度教育管理職の異動について」ご報告させていただきます。

まず、校長でございますが、今年度は小学校で3名、中学校で4名の異動がございました。

内訳でございますが、小学校は区内での転任が2名、区外からの転入が1名となります。また、啓明小学校の遠藤校長と鷺の杜小学校の武智校長は暫定再任用、塔山小学校の狩野校長と武蔵台小学校の宮内校長は特例任用となります。

続きまして中学校では、区内での転任が2名、区外からの昇任が2名で、中野中学校の竹之内校長は特例任用となります。

続いて、幼稚園では、ひがしなかの幼稚園の宮本園長が特例任用となります。

続いて2ページをごらんください。

副校長でございますが、今年度は小学校で9名、中学校で2名、幼稚園で1名の異動がございました。

その内訳でございますが、小学校では区内での転任が5名、区外からの転任が1名、区内での昇任が2名、区外からの昇任が1名でございます。

中学校では、区内での転任が2名となっております。

幼稚園では、区内での昇任が1名となっております。

最後に、教育委員会事務局、指導室は4名の異動がございました。

統括指導主事に昇任しました花井指導主事、教育庁八丈出張所から転入した中里指導主事、新たに中野第一小学校から山本指導主事、中野中学校から遊佐指導主事が就任いたしました。

学校の教育活動のさらなる充実に貢献できるよう、しっかりと育成を図ってまいります。

報告は以上となります。

田代教育長

ただいまの報告につきまして、質問や、ご発言がありましたら、お願いいたします。よろしいですか。

それでは、本報告は終了いたします。

次に、その他報告がございましたら、お願いいたします。

指導室長

それでは、議題にはございませんが、その他のところで、不登校児童・生徒への支援について、ご報告させていただきます。

スライド2枚目をごらんください。

まず、本区の不登校児童・生徒数でございますが、令和元年度から令和5年度にかけて増加傾向にありますが、令和6年度は、これは12月末時点の集計値でございますが、小学生で204名、中学生で203名と、令和5年度をピークに減少に転じる見込みでございます。

次のスライドをごらんください。令和6年の状況をもう少し詳細に分析するために、昨年度の同時期で比較をしてみたいと思います。

12月末時点の集計値で比較いたしますと、令和5年の小学生の不登校の数は202人ございました。令和6年は203人なので、1人増加はしておりますが、区内小学生全体の数も増えておりまして、出現率で比較いたしますと、マイナス0.27ポイント減少となっております。

また、中学生でございますが、令和5年の不登校の中学生は231人ございましたので、27人減少となっております、これは1割減少となっております。このように不登校児童・生徒数が減少に転じたのは、学校や教育委員会の取組の成果があらわれたものと考えます。

幾つか取組の事例を紹介したいと思います。次のスライドをごらんください。中学校の校内別室の利用状況を載せさせていただいております。

まず、校内別室とは、教室に行きづらい生徒が学ぶ部屋を全中学校に整備しまして、そこに2名の支援員を常駐させるとともに、不登校巡回指導を行う正規の教員が週1回程度訪問して、学習支援などを行ってございます。令和6年度は9校で98人が利用しておりまして、不登校を未然に防ぐことができたと考えております。

次のスライドをごらんください。こちらはスクールカウンセラーの相談件数のグラフと

なってございます。

令和6年度は、これまで東京都から配置されたスクールカウンセラーのみでしたが、ここに加えて、区で独自に各中学校区に1名追加配置をしております。そのおかげで相談件数全体も増加しております。左側が小学校のグラフで、右側が中学校のグラフとなっております。令和4年から6年にかけて相談件数、小学生ですが、不登校の相談件数は前年度比で1.9倍、中学校のほうは不登校の相談件数は0.8倍となっておりますが、相談件数自体は増えてございます。

次のスライドをごらんください。こちらはスクールソーシャルワーカーの支援の実績でございます。スクールソーシャルワーカーは令和5年度にチーフを配置しまして、10人体制として拡充しております。全部の相談件数、不登校の相談件数ともに増加傾向にございます。

次のスライドをごらんください。一方で、こちらは出席日数に着目して不登校の状況を見てみますと、本区の課題が見えてまいります。こちらのグラフですが、小中学校別に中野区と国を比較したグラフになります。棒グラフの淡い色になってございますが、上のほうの層の数値は出席日数が10日以内の子どもの割合となっております。中野区のほうが国と比べまして、上の層の淡い色が多いことがわかるかと思いますが、これは学校にほとんど登校できていない子どもの割合が、国と比較すると中野区は多いという特徴が見えてまいります。

次のスライドをごらんください。こうした特徴に鑑みまして、中野区では不登校児童・生徒のための学校に代わる居場所として学習支援や体験活動等を提供するフリーステップルームというものを設置しているのですが、令和7年度からこちらを充実させるために、サイエイホールディングス株式会社という、多数のフリースクールや通信制高校を運営している企業に運営を委託することといたしました。そこでどのようなことを行うかご説明しますので、次のスライドをごらんください。

こちらでは「10人いたら、10通りの学び方があっていい」というコンセプトで、一人ひとりに合わせた時間割を作成しまして、左側にあるように、子どもが作成した時間割に合わせて「ソロフィールド」「マルチフィールド」「テラコヤフィールド」「キャンプフィールド」と、目的ごとに分けたスペースに子ども自身で行って、そこで学びをしたり、いろいろな体験活動をしたり、このようなサービスを提供していきたいと考えてございます。

最後のスライドをごらんください。教育委員会としましては、「学校に登校する」という

結果のみを目標にせずに、どこにいても学びが保障され、児童・生徒が自らの進路を主体的に考えられるように後押しをしていきたいと考えてございます。

ご報告は以上となります。

田代教育長

ただいまの報告につきまして、質問やご発言がありましたらお願いいたします。

伊藤委員

資料がこちらでは全く見る事ができなかったので、こちらに資料が届いておりませんので申し訳ございません。途中でご連絡したのですけれども、その上でではございますので、私の理解不足も多々あるかと存じますけれども、いずれにいたしましても相談件数の増加ですとか、不登校の方の減少など、よい傾向がかいま見られるということで、大変ありがたいことだなど思っております。

これから新学期が始まりますので、こういった情報を速やかに各学校にも共有いただいた上で、新学期、期待に胸を膨らませて子どもたち、登校していると思いますし、反面、不安も多い時期だと思っておりますので、ぜひ速やかな相談への接続あるいは学校の中での居心地のよい状況を作成するといったことにつきまして、周知して頂ければと思います。

それからもう一つ、無理のない範囲で構わないのですけれども、個々の学校の中でそういった予防的な活動というのが、どういう形で手応えを感じられているのか。そういったことについても何か情報がありましたら、収集していただきたいですし、現在もし何かございましたら、補足で教えていただけることがありましたら、教えていただけたらと思います。

以上です。

指導室長

まず周知につきましては、今年度新たに取組を始めますフリーステップルームの情報につきましては、昨年度末にまず保護者の方にはすぐーるを活用して、運営体制が変わることをご案内しております。早速、昨年度中に体験をしたいという声もいただいております、こちら、保護者の方からのご期待も寄せられているところです。

あと、昨日、校長と会う機会がありまして、そこでもパンフレットを配布して、事前に周知をしております。また来週も全体の校長会がありますので、そちらで周知をするとともに、併せてすぐーるでも、新たなパンフレットも周知をしていきたいと考えてございます。

また、各学校での手応え等でございますが、特に中学校の校長先生方からは校内別室の

取組は非常に効果があるということで、手応え、実感のようなものを感じているというのはご報告が上がってきてございます。各学校で校内別室をどのように運営しているかということを校長先生方同士が情報共有を図っていただいて、より今年度に向けて改善していくというところも話し合われていたかと思います。そういう形で、小学生にもその情報を伝えて、小学校の校内別室の充実にもつなげていきたいと考えてございます。

以上です。

伊藤委員

ありがとうございます。大変な貴重な情報をありがたく存じます。

校内別室が大変効果を上げているということから、子どもたちが多様な学びの場という前段階として、学校の中での多様な居場所ですとか、多様な学び方ということを、潜在的に求めているのではないかということも今のお話から感じました。ぜひ、そういった校内別室での実践を踏まえて、学校全体が子どもたちにとって楽しい場というか、毎日行きたくなる、休みたくない場になるように、心がけていただくよう、お願いできればと思いました。

表現したいことといたしましては、休み始めた方へのいろいろな支援はものすごく大事ですけれども、やはり休みたくならない学校づくりというのが根本的には一番大事なかなと思いますし、また多少休みたいときも、中間的な別室とか、いろいろなことで、その気持ちがあまく日々の学校生活にまたつながっていくような仕組みということも大事だと思いますので、そういう別室に登校していらっしゃるお子さんの意見ということも大事にしながら、学校づくり全体にいかしていけるようご周知いただけたらと思います。

中学校と小学校では発達段階が非常に違っておりまして、不登校の原因等々も異なっていると思いますので、なかなか小中の実践の交換ということも単純には難しい面があると思いますけれども、接続期ということも非常に重要ですので、小学校高学年から中学1年生のあたりにつきましても、接続という観点からもお考えいただけけるようなことがありますと、区としても一貫した教育あるいは支援ということにつながっていくかなと思いました。

以上でございます。

岡本委員

伊藤委員のご発言につなげてなのですが、私も休みたくならない学校づくりが根本にあると思います。学校の中で多様な居場所があることは大事です。教室の中でも、子どもに

とって多様な居場所はあっていいのではないかなと思います。どうして教室に入れずに校内別室に入れるのかと考えたら、教室が多様な子がいられる場になっていないからではないかと思います。もちろん、いろいろな理由があると思いますが、いろいろな居場所を学校の中、また社会につくっていった先に、教室というものがどうなっていくのかというのも、僕はすごく気になっています。

教室に縛りつけなくてはならないという時代ではないですが、教室で学べることもありますし、地域の子どもたちが一つところにいることで学べる場もあります。教室というものと学びの保障というものをどう考えていくのかというのも、併せて今後議論していきたいと思いました。今のは意見です。

次は質問なのですが、フリーステップルームをリニューアルされていくというのはいいと思うのですが、それ以外の取組として、なかなかアプローチできていないご家庭、子ども。こちらから、学校や行政からのアプローチに対して、あまりリアクションいただけないようなご家庭もあるとすれば、それも今後手を打っていかないといけないと思うのです。そのあたりについて、現時点で取り組まれていることがあるかどうか、教えてください。

指導室長

こちらは、我々としても非常に難しい課題だという認識でございます。これからさらに取り組んでいかなければいけないところだとは思っているのですけれども、現状ですと、スクールソーシャルワーカーがご家庭に訪問して、そのお子さんと会えるように調整を図っているというところです。もし会えた場合には、外に出られるようであれば、マンツーマンで、それこそ公園みたいなところであったり、そのお子さんがちょっとお話しできるようなところに行って、お話をするというところで行っているところでございます。

ただ、それでもなかなかアプローチできないお子さんがいるというのも現実でございます。このお子さんについては、例えば児童相談所等と連携をしたり、すこやか福祉の部局とも連携しながら、対応を図っていく必要があるだろうと考えてございます。

平本委員

詳しいご説明をありがとうございました。

私もほかの委員の皆さんと意見が重なるところがあるのですけれども、もちろん対策だけではなくて、予防が大事であって、これまでずっと中野区としても予防と対策をセットできちんと議論して取り組んできたところ、今回、相談件数が増加している一方で、逆にきちんと人数が減っているというのは本当に効果がよく見えたところで、その数字の検証

も、昨年度からずっと皆さんと議論しながらやってきた成果というのが今回よくわかりましたので、その点は大変よかったのではないかと考えております。

また、多様な選択肢があることはとても大事だと思う一方で、新しい取組をすると、その効果も知りたいので、使ってみたいとか案内したいというのはもちろんあるとは思いますが、すけれども、こういうものをまず出してしまうと、それはそれで逆に学校よりもこっちのほうが楽しそうとか、こっちのほうがいいになってしまうという問題も一定あるのかなと考えていて、その前にまずお子さん一人ひとりに寄り添って、話を聞いて、どういう形だったら一歩踏み出せるか、学校に行きたいと思えるかというところの丁寧なステップをぜひ飛ばさないで、親御さんにもお子さんにもアプローチしていただきたいと考えています。

その上で、中野区としてこういう新しい取組もあるのだということをお子さんの状況に合わせて示していくという、そういう丁寧なステップをぜひ、学校も関係者も忘れないでいけるといいかなと考えております。

1点ご質問なのですがすけれども、既にこれまで区としていわゆるバーチャルな、メタバースの学びの空間というのは実践してきたと思うのですがすけれども、今までやってきたものと、今この新しい業者に委託する中の「ソロフィールド」の中の「メタバース学習」というものとの関連性や位置づけ、どう、何が連携していくのかというのが、もし決まっている部分があったら教えてください。

指導室長

令和5年度からいわゆるVLP（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）を導入しまして、令和5年度はあまり利用実績がなく16人、令和6年度になりましてからは60名近くの利用者がいるという状況で、この仕組み自体は継続をして行っています。これは区の職員が引き続き、同じ職員が対応していきます。フリーステップルームに新たに来たお子さんもまたこちらに入ってきて、やっていくということは変わらず行っていきたくて考えてございます。

村杉委員

ご丁寧にご説明ありがとうございました。

ほかの委員の皆様と意見が重なりますが、令和6年の人数が減って、大変よかったと考えております。また、中学校の校内別室の利用状況を示していただきましたが、先日の小学校の校長会の際に、別室を確保するのがなかなか難しいというお話も伺いましたので、今後

このような場所の確保もご検討いただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

指導室長

まさに昨日、校長先生方と今のお話をしておりまして、小学校のほうは部屋が足りない学校があるということで、例えば学童であったり、すこやかであったり、日中はあまり利用されていないスペースがありますので、そういったところと共存をしていくといいますか、そういうことも含めて環境を調整していきながら、多様な学びを提供できるような学校にしていきたいと考えてございます。

岡本委員

フリーステップルームの学び、私もすごく楽しそうだと思ったのですが、評価についてなのですが、小学校の子も行くでしょうし、特に中学校の子が行った場合に、どうしても内申というのが気になるころではあります。そのあたりの学校との連携について、お考えがあったら教えてください。

指導室長

こちらは、学校の学びとこちらでの学びというものの連続性というのをしっかり考えていきたいと考えております。体制としましては、ここに、先ほど平本委員からもお話があったと思いますけれども、学校との接続をするために区の職員を配置しまして、その区の職員が学校との窓口になっていって、このお子さんの学習状況を各学校に伝えるという役割を果たすものでございます。そういったものが、各学校に学習状況等を連絡しまして、そこで各学校の教育課程と照らし合わせて、評価できる部分については積極的に評価していくようにしていきたいと考えてございます。

伊藤委員

資料も今送っていただきましたので、本当に短時間で、ざっとでございますけれども、拝見できました。

資料を拝見して2点、気がつきましたけれども、一つはとても魅力的なパンフレットを作成していただいて、そういった小さなことのようにいって、雰囲気伝わるといって、具体的なイメージの湧く資料はとても有効ではないかと思いましたので、ありがたく感じました。

それからもう一つ、出席日数に着目した不登校の状況のグラフを拝見いたしますと、特に小学生でどうなのかと類推いたしますけれども、短期間の不登校の方もいらっしゃる反

面、長期にわたる不登校の方が特に小学生で多いのかなとグラフから思いまして、先ほどそれに関連してソーシャルワーカーのお話もありましたけれども、私の経験からで恐縮でございませけれども、先生方が再び登校してくれることを期待することや、長く休んでいてもまた時機が来たら学校に来たいと思ったり、いろいろな活動をしたと思うお子さんがたくさんいらっしゃるの、時機を捉えたアプローチということ、学校が忘れずにいてくださると、いろいろな方々が次のステップに、学校だけではない様々なステップにつながっていくと思いますので、そうしたことにつきましても周知いただけたらと思ひました。

長く休んでいるお子さんも、ご家庭の中で変化するし、その変化のタイミングに合わせた支援が大事ですし、そういった意味で、学校がその時機、その時機でできることが必ずあるので、それを忘れずに先生方の教育活動の中で、ご無理のない範囲でしていただきたいということをご周知いただけるとありがたいと思ひました。

以上でございませ。

指導室長

その部分も我々、考えておりまして、例えば担任の教員1人にそのお子さんを任せてしまうと、なかなか忙しかったり、時にはちょっと失念をしてしまうということもあろうかと思ひます。組織で対応していくということが必要かなと思ひておりまして、例えば不登校支援委員会等、各学校で行っていただいて、その中にスクールソーシャルワーカーでしたり、それからスクールカウンセラーにも入ってもらって、適宜、適切な支援を行えるようにしていきたいと考えてございませ。

伊藤委員

ありがとうございます。ぜひ組織的な取組をしていただけたらと思ひますし、そこにスクールカウンセラーも入ったり、ソーシャルワーカーも入ったりということがございませと、それぞれの知見から支援を考えることができますので、非常によい取組ではないかと考えませ。

また、保護者の方も含めた支援だと思ひますので、学校にお子さんが来ていなくても、あるいはお子さんは、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、学校との直接のカウンセリングとか、支援につながらなくても、保護者の方が現在のご様子などをお伝えくださることで、時機に合った支援が可能になりますので、ぜひ保護者の方との連携、保護者の方との情報交換ということも、そういった会議も中心に置きながら、忘れずにしていただ

るようお願いできたらと思います。

以上でございます。

田代教育長

ありがとうございました。

ほかに追加でご意見やご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、本報告は終了いたします。

それでは最後に、事務局から次回の開催について、報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会は、4月11日金曜日10時から、区役所7階、教育委員会室で実施いたします。

なお、諸事情により、急遽休会になる場合がございます。中野区のホームページにてご確認をお願いいたします。

田代教育長

ありがとうございました。

以上で本日の日程は全て終了しました。

なお、村杉委員につきましては、4月10日で教育委員としての任期が終了となります。教育委員としてご活動いただき、ありがとうございました。今後とも中野区の教育行政にお力添えをお願いいたします。

これをもちまして、教育委員会第10回定例会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午前10時37分閉会